

## 発刊に寄せて

### 記念誌「未来につながる酪農教育ファーム」に寄せて

農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課課長／水野秀信

この度、酪農教育ファーム活動が20周年を迎えられましたことに関し、これまで活動を推進してこられた教育関係者及び酪農関係者の皆様に敬意を表すとともに、心からお慶び申し上げます。

本活動は、平成10年の酪農教育ファーム推進委員会設立以降、我が国の酪農を巡る環境等を消費者に直接伝えることにより、酪農の存在意義や国産牛乳乳製品に対する理解の醸成等、食育推進活動の中心的な役割を果たしてこられました。

ご案内の通り、本年には日EU・EPA交渉が署名に至る等、我が国の酪農をはじめとする農林水産業は新たな国際環境のもとに置かれます。このように、国際情勢がめまぐるしく変化する一方で、安全で良質な国産牛乳乳製品の提供、地域経済の維持・活性化など、豊かな国民生活のために我が国の酪農が果たす役割は何ら変わることはありません。

我が国の酪農が、今後とも夢と希望のある産業であり続け、消費者に安全で美味しい牛乳乳製品を安定的に供給いただけるよう、皆様の一層のご理解とご協力を賜りますようお願いするとともに、我が国の酪農教育ファーム活動の益々の発展を祈念いたしまして、お祝いの挨拶とさせていただきます。

### 全国酪農教育ファーム祝成人

地域交流牧場全国連絡会 会長／渡辺隆幸

この度、酪農教育ファーム活動が20年の節目を迎えられたことに心から敬意とお祝いを申し上げます。立ち上げに携わっていただいた勇気ある多くの方々のご努力と継続してバックアップしていただいた中央酪農会議の皆様、改良に改良を重ねて実りあるものに築き上げていただいた教育関係者の皆様、そして、何よりも活動を日々続けていただいた酪農家の方々に心から感謝を申し上げます。

地域交流牧場全国連絡会も来年は20周年を迎えます。その過程には、幾度となく存続の危機があり、それを乗り越えながら続けてくることができました。素晴らしい同志と交流を深め合い、励まし合い、そして研鑽を重ねて現在があります。消費者の方々と語り合い酪農のことや牛乳のこと、牛乳のことをお互いに理解し、学び合いながら酪農の現場がコミュニケーションの場になっていきます。今後もこの取り組みが酪農家や牧場の可能性を最大限に活かしながら成長していきましょう。

全国の素晴らしい会員と酪農教育ファーム活動を行う認証牧場が手を携えてますます前進を続け、30年、50年と発展していくことを心より切望いたします。改めまして、全国酪農教育ファーム活動20周年おめでとうございます。

### 酪農教育ファーム活動へ感謝と、さらなる発展を期して

日本酪農教育ファーム研究会 会長／國分重隆

酪農教育ファーム活動20周年、加えて本記念誌の発行おめでとうございます。かつて、この活動を産み出す取り組みに生きがいを感じながら参加し、その後も発展を願い共に歩んできた一人として、20年という歴史の蓄積には感慨深いものがあります。

さらに、今日に至るまで多くの活動実績を重ねて来たことは、何よりこの活動に携わった人々の熱意が本物であることを物語っていると思います。酪農教育ファーム活動は、牧場の人々と教師のコラボレーションにより、子どもたちの心に潤いや安らぎを与え、いのちや食の大切さを実感させ、しごとを通して社会に貢献する模範を示し、質の高い学びを実現してきました。それは、この活動に価値を感じる酪農関係者と教育関係者をつなぎ、活動が充実するよう、常に先頭に立ち推進してくださった中央酪農会議の皆様のご尽力の賜です。

日本酪農教育ファーム研究会も、この活動の流れの中で、中央酪農会議のご支援により誕生しました。そのことへの感謝を忘れずに、今後も酪農教育ファーム活動の教育的な価値を活かし、教育現場の抱える課題解決に役に立つ実践的研究に邁進いたします。最後に、酪農教育ファーム活動のさらなる発展を期し、祝辞に代えさせていただきます。

## はじめに

### 土台作りから充実・発展に向かって

酪農教育ファーム推進委員会 委員長／羽豆成二

我が国において酪農教育ファームが設立され、組織的な酪農教育ファーム活動が始まって20年目を迎えることができたことは喜びにたえません。

本委員会は、社団法人中央酪農会議（当時）の提唱により、前田浩史氏、故伍代正樹氏などを中心に設立の骨子が固められ、正式に発足したのは平成10年7月でした。設立の背景には、学校教育現場と酪農生産現場からの熱い思いと願いとともに、関係諸機関の様々な協力があつたことも特筆される点です。

当時の学校現場では、学級崩壊、授業妨害、校内暴力などの言葉が日常的に使われるほど、混乱の状況にありました。こうした実態のもとで、子どもたちの荒れた心を動物たちとふれあうことを通じて和らげようとする動きが学校現場から起こってきました。また、酪農生産現場からは厳しい経済環境の中で、安定的な国産原乳の供給を継続し、牧場の機能を維持・発展させていくためには牧場を開放し、国民の理解と支持を得ようとする強い願いがありました。つまり、本委員会は、教育と酪農の一体化を図り、

子どもたちの健全な育成を支援しようとする動きの中で設立されたのです。

一方、教育界においては、21世紀を展望した我が国の教育のあり方について、「ゆとり」の中で「生きる力」を育むことを重視した学習指導要領の全面改訂が示されました。ここでは、学校や地域の特性を踏まえて創意工夫を生かした教育活動を行う時間として、「総合的な学習の時間」の創設や完全週休2日制の実施などが提起されました。

こうした折に、酪農体験を通して生命産業とも称される酪農の産業としての特性を生かし、子どもたちの「生きる力」を育む「心の教育」「いのちの教育」を支援する点とともに、生産者自身への啓発も図っていくことを主たる目的とした酪農教育ファーム推進委員会が設立されたことは誠に意義があり、画期的なことであつたといえます。

さて、この20年間を振り返ってみますと、酪農教育ファーム活動は酪農家、教育関係者、その他関係の方々の努力により、活動の基盤は固まりました。子どもたちも教室での座学による学びとは違って、動物などの触れ合いなどを通して学ぶ意義や楽しさを体得できていると確信できます。その後、酪農教

育ファーム活動がより効果的、効率的に運営されることを願い、活動の目的を「酪農を通して食やしごと、いのちの学びを支援する」と改め、今日を迎えています。

現在、教育界においては、再来年度より小学校から順次全面实施される新学習指導要領の対応に追われているところです。今回の改訂では、「社会に開かれた教育課程」の実現を強調しており、これまでに以上社会との連携・協力を重視しています。つまり、学校教育を学校内に閉じるのではなく、現実の社会との関わりの中で豊かな学びを実現することを目指しているのです。このことは、まさに酪農教育ファーム活動に通じるものであり、今後の活動の活発化が期待される点です。

我が国における酪農教育ファーム活動も、その土台作りの段階から充実・発展に移行しつつあります。これからは、牧場、学校、地域、行政などのネットワークを強化し、子どもたちの「生きる力」「真の学力」を育む観点から、酪農教育ファーム活動を長期的、安定的に発展させ、広く国民や地域住民の方々からの信頼と期待に応えられるように、より一層の充実・発展を願ってやみません。